

- 地方ごとに関連業務で目指す変容の目標と進捗を下表で整理する (ESDとしての成果(人材の成長), 実践対象・機会, 体制・継続性等の仕組みを評価する)
- ステークホルダーだけではなく, ESDセンターの介入や自治体政策と関連づけて俯瞰する
- 地域ESD推進拠点の状況の整理 (担い手マップ), ネットワーク全体の評価 (アプローチマップ) にも適用可

目的とする変容の対象 (フォーカス)

	Focus 1 学習者の変容	Focus 2 教育者・実践者・ 組織の変容	Focus 3 ネットワークの 変容	Focus 4 仕組みの変容	社会的インパクト (めざしたい状態)
学校					<div style="border: 1px dashed orange; padding: 5px; display: inline-block;"> 最終的には, 社会・コミュニ ティの変容 が目標となる </div>
社会教育拠点					
ビジネスセクター					
連携プラットフォーム 支援体 (自治体, 温暖 化防止センター, 他)					

- 学習者 (個人) ⇒ 組織 ⇒ ネットワークへの働きかけ ⇒ 社会の仕組みをつくりかえる
- 学校・地域・ビジネスでの学びが地域・社会を変えていく

1.今回、実施した内容

異なる教科、レイヤーを統合した「気候変動に適応した実践型防災教育」

原因の理解
(地球規模)

地球規模課題の気候変動を理解する
(特に適応策)

講師：国立環境研究所
気候変動適応センター
吉川 副センター長

環境教育

気候変動がもたらす影響を知り、
水害リスクが増大する原因について理解する。

原因の理解
(地域レベル)

地域固有の具体的な防災上の危険個所と、その理由を理解する

講師：
・流山市博物館 学芸係長
・流山市役所 市民生活部
防災危機管理課

地理教育

温暖だった縄文時代の海岸沿いに残された遺跡、水害ハザードマップから、地域の地形的な特徴を理解する

対症法の理解
と実践

災害が起きた際の対応力を身に付ける

講師：
流山防災
まちづくり
プロジェクト

防災教育

災害時に、実際に避難所となる学校の体育館を舞台に、地元自治会と合同で避難所開設訓練を実施

2.目指したもの

気候変動、地域の地形的特性（リスク要因）を理解し、自律的に行動できる人材の育成に資するプログラムづくり

関連する教科（理科、社会、道徳、保健体育等）への学びの意欲の向上

3.効果・変容（インパクト）

- ・自分達はもう「助けられる側ではなく助ける側」ということが新たに学びました。（中学生）
- ・今回のプロジェクトを通して生徒は災害のことを理解したり、防災への意識を高めることができましたと思います。（教師）

4.ESDC的な配慮事項

参加・体験型
教科・分野の横繋ぎ
組織連携・つなぐ
波及可能なロールモデル

流山市東部中学校 生徒さん

ESDプログラム実施

ワーキンググループ（WG）

学び合いプロジェクトの内容を検討

流山市防災課、教委、東部中学校、NPO、公民館、国環研適応C、ESD学識者



プロジェクトメンバー 本テーマに関心のある方

限定公開
動画視聴

希望者は誰でも全国からオンライン視聴。
フィードバックコメントを受付
温暖化・適応センター、行政（防災）、NPO、一般、学校を想定



オンラインフォーラム（令和5年1月25日）

全国に普及を目指す！

	Focus 1 学習者の変容	Focus 2 教育者・実践者・ 組織の変容	Focus 3 ネットワークの変容	Focus 4 仕組みの変容	社会的インパクト (めざしたい状態)
学校	<p>学び合いプロジェクト 「気候変動による影響と対策に関する、学びと実践」</p> 	<p>【教師】（意識変化） 中学生が地域の一員として人を守る側になる</p> <p>【中学生】（意識変化） 今後に備えて家族で話し合おうと思った</p>			<p>今回のプログラムが、全国へ波及すること</p>
社会教育拠点		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館 ・市立博物館 	<p>博物館、市の防災危機管理課が連携することは、これまでに無かった</p>	<p>博物館、市の防災危機管理課では、出前授業はあまり行ってこなかった。</p>	
ビジネス セクター			<p>※各ステークホルダーの効果検証は、1/25のオンラインセミナーで全体共有予定</p>		
自治体、温暖化防止センター、他	<ul style="list-style-type: none"> ・市教委 ・市防災危機管理課 ・国環研 適応C ・地元防災NPO ・学識者（ESD） 	<p>国環研 適応Cとしても、地域で実際に教育活動をするには、殆どなかった</p>	<p>地元防災NPOの方は、個別に色々なところと付き合いはあったが、今回のプロジェクトにより、大きな連携が実現した。</p>		<p>地域毎に、どこか（ローカル適応センターなど）、が旗振り役となり、本プログラムを推進し、ローカル教材の開発、関係機関の調整を行う枠組みを構築する必要がある。</p>

地域づくりのための気候変動社会教育



- ・ ワークブック関連知見の収集と分析
- ・ 学びあいの場プロジェクトの実施計画



- ・ 学びあいの場①の開催 (8/25)
- ・ 学びあいの場②の開催 (9/1)
- ・ 第1回研究ワーキング (6/21) 全体計画とワークブック改善の方向性
- ・ 第2回研究ワーキング (9/26) 学びあいの場実施の振り返り、実践活動の計画

学び合い①②講師陣
 江守 正多 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
 木原 浩貴 総合地球環境学研究所 客員准教授
 杉山 範子 名古屋大学大学院環境学研究所 特任准教授

- ・ SDGs社会教育実践セミナーの開催 (11/25)



- ・ 全国フォーラムへの参加 (12/10)
- ・ 第3回研究ワーキング (12/20) ワークブックブラッシュアップ

ワーキンググループ
 古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授
 水上聡子 アルマス・バイオコスモス研究所代表
 堺 勇人 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長
 原 理史 中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員(非常勤)
 ゲストアドバイザー 佐藤真久 東京都市大学教授



現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック
 企業研修/生涯学習/地域づくりSDGs社会教育・学び合いヒント

- 目次(案)
- はじめに
1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
 2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか
 3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①
 4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②
 5. 具体的に実施してみる～中部地方の実例から③
 - (1) 海岸ごみからSDGsを考える
 - (2) 気候変動教育をまちづくりに活かす
 6. 実践効果をどう考えるか 具体的な測定方法

オンラインセミナー2回(第1回60人、第2回61人参加)
気候変動ワークショップ(会場30人、オンライン21人参加)
専門家による研究会3回の議論とワークブック編集(予定)

SDGs社会教育「学びあいの場」①②オンラインセミナー

学びあいの場①8月25日16:00～18:00

1. 基調講演（50分程度）

「気候危機の科学とリスク・社会を変えるには」

江守 正多 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
国立環境研究所 上級主席研究員

2. 話題提供（30分程度）

「脱炭素社会を見えるものに～市民目線のまちづくり～」

木原 浩貴 総合地球環境学研究所 客員准教授

3. 質疑とフロアディスカッション・とりまとめと総括

コーディネーター 原理史
中部地方ESD活動支援センター



学びあいの場②9月1日16:00～18:00

1. 基調講演（50分程度）

「気候危機に立ち向かい持続可能なまちづくりを目指す」

杉山 範子

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 特任准教授

2-1. 話題提供①（20分程度）

「市民ワークショップによる「脱炭素」と「地域課題」の同時解決の図られた将来ビジョンづくり」

田中九一郎 大野市くらし環境部環境・水循環課 課長

2-2. 話題提供②（20分程度）

「まちづくりワークショップ・まちづくりカレッジによる気候変動へのアプローチ」

北川直規様 坂井市総合政策部まちづくり推進課 課長

3. 質疑とフロアディスカッション・とりまとめと総括（20分程度）

コーディネーター 原理史 中部地方ESD活動支援センター
中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員



ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化 【中部地方ESDセンター】学び合いプロジェクト

SDGs社会教育 「学びあいの場」 ①②オンラインセミナー（R4年 11/25）	Focus 1 学習者の変容	Focus 2 教育者・実践者・ 組織の変容	Focus 3 ネットワークの変容	Focus 4 仕組みの変容	社会的インパクト (めざしたい状態)
学校					気候変動に有効な対策をとるコンピテンシーを有する各層の市民が、持続可能な地域社会を担う状態（案）
社会教育	<div data-bbox="366 619 580 782" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">①②オンラインセミナー(講演+ディスカッション)</div> <div data-bbox="639 654 810 748" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;">オンライン参加者</div>				
ビジネス セクター					
連携プラットフォーム支援体 (自治体, 温暖化防止センター, 他)					
<div data-bbox="912 1125 1600 1239" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 5px;"> 江守正多教授（東京大学 未来ビジョン研究センター）、木原 浩貴客員准教授（総合地球環境学研究所）、杉山範子特任准教授（名古屋大学） </div> <div data-bbox="912 1260 1386 1343" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 大野市くらし環境部環境・水循環課 坂井市総合政策部まちづくり推進課 </div> <div data-bbox="1403 1260 1587 1310" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 中部ESDC </div>					

SDGs社会教育実践セミナーの開催

- 地域づくりの担い手や次世代育成のための、気候危機対策のまちづくりワークショップをローカルSDGsの取組の一環として実践する。
- ローカルSDGsのための福井県版気候変動教育プログラム体験
ファシリテーター 水上聡子 アルマス・バイオコスモス研究所 代表
総括 佐藤真久 東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授
開催場所：福井県大野市 結とぴあ（多田記念大野有終会館）
開催方法：現地開催、オンライン中継
開催日時：2022年11月25日（金）13:30～16:30

※ワークショップで用いる教材の著作権は、福井県および大野市に属しています。

①24枚のカードを使った ミステリーワークショップ

福井県版気候変動ミステリー ワークショップでは...

24枚のカードを使って、福井県や全国、世界で起きている現象の謎解きをします。様々な要因が複雑に絡まり合っていることを理解し、システム思考の力を養います。

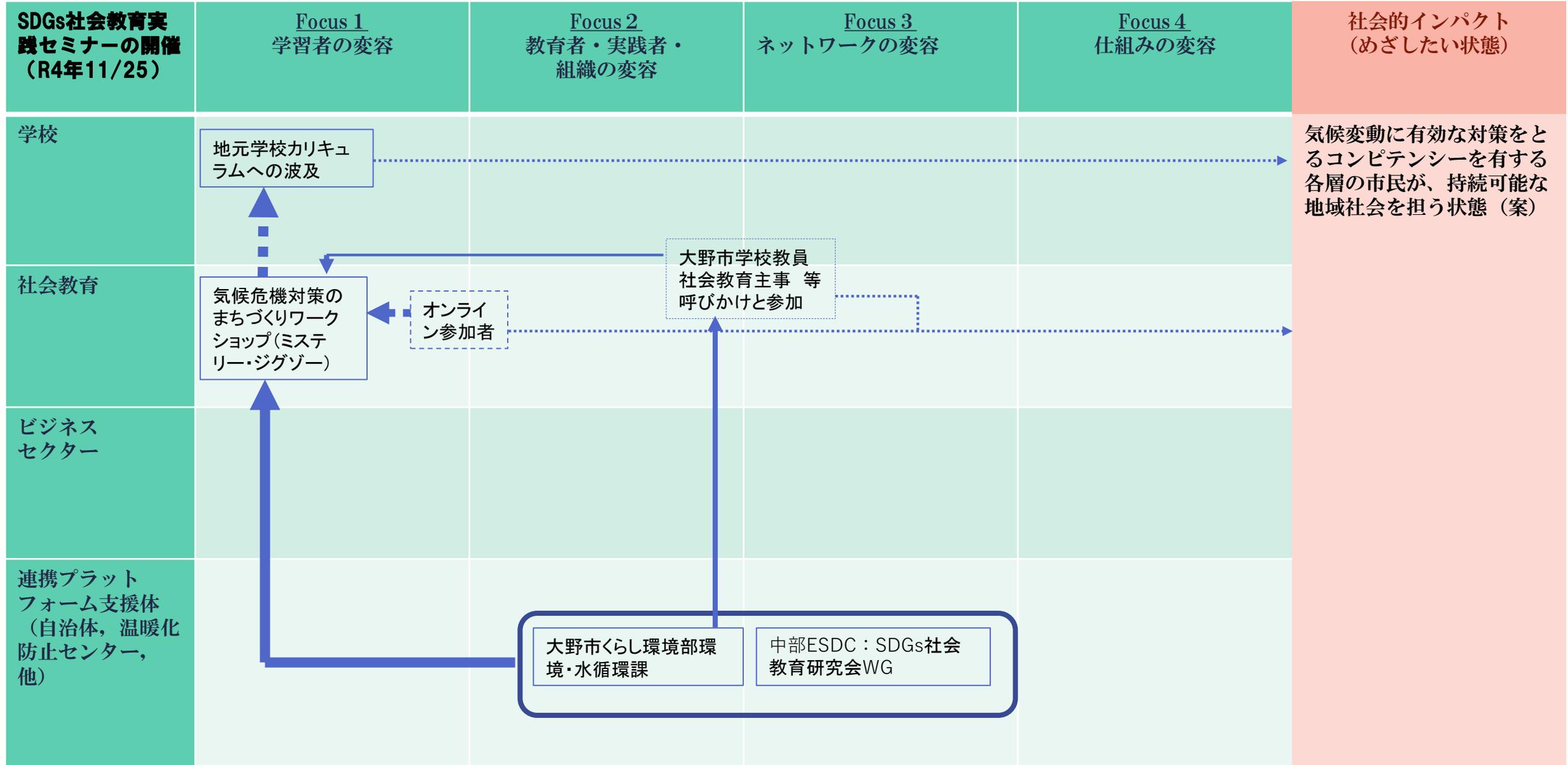
②ジグソー法による 課題解決ワークショップ

課題解決ワークショップでは...

福井県や大野市のデータをもとに、ジグソー法を用いて持続可能な県や市の未来像や実現のための方法を考えます。ジグソーパズルのように、様々な分野を組み合わせた未来像を描き、実行のための方法を考えながら、未来予測、批判的思考、統合的問題解決の力を養います。



ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化 【中部地方ESDセンター】学び合いプロジェクト



SDGs社会教育研究会WGとワークブックの作成

専門家コアメンバー

- 古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授 中部ESD拠点協議会事務局長
- 水上聡子 EPO中部運営委員 アルマス・バイオコスモス研究所代表
- 堺 勇人 EPO中部運営委員 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長
- 原 理史 中部地方ESD活動支援センター 中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員（非常勤）

オブザーバー 原 慎一郎 環境省中部地方環境事務所 担当官

ゲスト（3回目のみ）

佐藤真久 東京都市大学教授

事務局

清本三郎 中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

第1回研究ワーキング（6/21）：気候変動教育をテーマとした全体計画とワークブック改善の方向性

第2回研究ワーキング（9/26）：学び合いの場実施の振り返り、実践活動の計画

第3回研究ワーキング（12/20）：全国フォーラム振り返り、ワークブックへの反映



環境省 ESD推進ネットワーク 令和3年度学び合いプロジェクト
 令和3年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務

プロトタイプ編集版

現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック

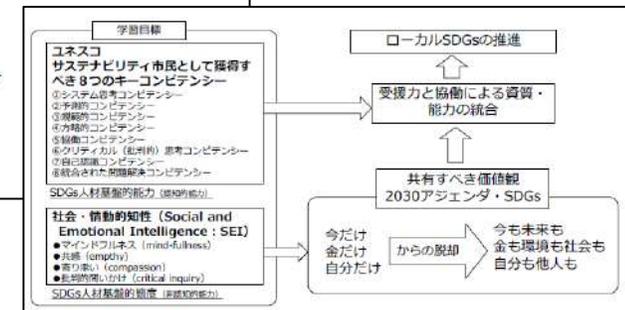
企業研修／生涯学習／地域づくり
 SDGs社会教育・学び合いヒント

中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会
 2022年7月

目次

はじめに

1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
2. 「SDGs社会教育」が目指すもの
3. 実践方法を考える～中部地方の事例から①
4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の事例から②
5. 実践効果をどう考えるか



ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化 【中部地方ESDセンター】学び合いプロジェクト

